

動物園の人気者

ライオン



ネコ科としては珍しく、群れ（プライド）をつくっている。住民や家畜が襲われることから狩猟が高まり、後を絶たない。近年の減少は10年ほどで20%以上も激減し、絶滅が心配されている。

亜種インドライオンは個体が全て「ギル保護区」で350頭未満しかいない。



トラ



現存するネコ科の中で最大、森林や湿地に生息する。美しい毛皮目当ての狩猟、森林の伐採によって獲物が減少したことが大きな要因である。骨が薬として珍重され、密猟が絶えない。20世紀には、3つの亜種が絶滅し他のトラも減少の一途をたどっており、種全体が「絶滅危惧種」に指定されている。



ジャイアントパンダ



標高2600~3500mの竹林で単独行動し、タケとタケノコを主食としている。消化器は植物に適応していないため消化率は悪く1日の大半を採食のため費やす。竹林の伐採・農地開発による生息地の破壊、毛皮目的の狩猟などにより減少し近い未来、絶滅が危ぶまれている。



ホッキョクグマ



最大の肉食獣で首が長い体型は、泳ぎに適応している。気候変動により、「2100年までにはいなくなる」という論文が発表された。地球温暖化の影響、獲物となるアザラシの減少が問題になる可能性がある。



害獣扱いされた者



Save

オオカミ

イヌ科最大の動物で7~13頭の群れをつくって行動する。シカ類を主に獲物としているが、自分よりも大きな動物を倒すこともある。

人間の経済活動により生息地が破壊されたこと、家畜を襲う害獣として捕獲されたことなどから個体数が減少している。



NO!



Oh

アビシニアジャッカル

19世紀には、エチオピア全土で見られた。しかし、現在は高度3000~4000mの開けた草地にわずかに生息するだけである。

生息地が開発され、家畜を襲うと誤解されて射殺されたことが原因で個体数が激減した。



Why?



Hurt!

ピューマ

森林・岩山・高山までに広く生息し、夜行性で中型の動物を捕食するため行動圏が広い。牧場の牛やヒツジを襲うことから懸賞金をかけられ駆除されている。

近親繁殖の弊害が問題となり、交通事故で死亡するケースも目立つ。飼育下で繁殖させ、野生復帰へ活動が実施されている。



Hey!



Hungry

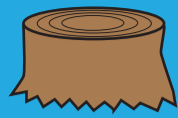
ユキヒョウ

標高2700~6000mの高地に生息し、野生のヤギ、ヒツジ、ネズミなどを獲物としている。毛皮目的のため、家畜を襲うため駆除されることが多い。

狩猟と開発によって生息数は減少しており4080~6590頭と推測されている。



Full



森林伐採で減少



ゴリラ



Help

アフリカの熱帯雨林に1頭のオスを中心にメス数頭からなる集団で暮らしている。果実を好むが標高の高い山地林では、草の葉・茎・根を食べる。好戦的と誤解され、狩猟目的にされ生息数を減らした。

マウンテンゴリラの場合、森林の伐採により生息域が減り、絶滅が危ぶまれ、680頭が残るのみと指定されている。



Strong

アジアゾウ



write

インド・インドネシアなどの森林にメスを中心とした群れで、移動しながら暮らしている。象牙や象皮を目的とした狩猟、森林の伐採による生息地の消失が減少の最大の要因である。管理計画の策定と十分な整体調査、人工繁殖に関連する研究などの課題がある。



wait

マレーバク



Dream

タイとマレーシアに約500頭が生存している。主に森林の伐採による生息地の減少が大きな要因となっており、皮や肉の利用のため密猟が継続的に行われていることも脅威となり人里から離れた山地の頂上付近まで追いやられている。



Night

オオコウモリ



Please

空を飛ぶ哺乳類では最大で、翼を広げると1.7mにもなった。樹林に住み、夕方になると自分の視力を頼りに果実を求めて飛び回る。生息地の開発で森が少なくなり、台風の被害で数が減っている。

さらに、オオコウモリは食用として乱獲され、年間約1万6000匹も輸入されている。



Fly



密猟

アフリカゾウ



最大の陸上動物でメスを中心とした群れでサバンナに生息し全土130万頭生息していた。しかし1976年40万頭虐殺され、絶滅の恐れが出てきた。さらに1989年には60万頭にまで激減し、ワシントン条約では象牙の輸出を禁止した。



シマウマ



アフリカの草原に群れで生息し、開発や毛皮を目的とした乱獲密猟などにより生息数が激減した。1976年、政府が規制するまで、毛皮の乱獲が減少の一番の問題であった。

無制限なエコツーリズムも本種の行動に影響を与え、植生の破壊につながり問題になっている。



ヒョウ



アフリカ・アジアの森林や草原に生息し、レイヨウやシカなどを捕食している。

人間や家畜に害を及ぼすことから捕獲されているが、美しい毛皮のために密猟が絶えず、生息環境の分断・悪化により個体数は激減している。



インドサイ



南アジアの森林に生息している。漢方薬用にツノの需要があり狩猟により数を減らし、密猟は現在も行われている。

1989年までは、パキスタンにも生息していたが、現在は絶滅している。



絶滅種



Future

ニホンオオカミ

日本の本州・四国・九州の山々の中で5～6頭の群れをつくっていた。1732年、狂犬病が流行し彼らに伝染しオオカミ狩りが行われるようになった。1905年、奈良県で捕獲されたオスを最後に絶滅したと考えられる。その後、シカやイノシシが増え森の植物・田畑を食べ尽くすようになってしまった。



Disease

クアツガ



Why

アフリカ南部に生息しヌーやダチョウと混生していた。1800年代までは、ケープタウン周辺で見られた。開拓が始まってから激減し、肉は労働者の食料に、皮は穀物袋や高級靴などに利用された。1883年、動物園で飼育されていた個体が亡くなり絶滅した。



Bye

タスマニアタイガー



Tough

頭はオオカミ、体にはトラのような縞模様がある変わった生き物。タスマニア島に生息し、ワラビーやネズミを捕食していた。牧畜業が島で始まるとヒツジを襲う悪魔と誤解され駆除の対象となり、多くの個体に懸賞金がかけられた。

1936年に動物園で飼育されていた最後の個体が死亡し、絶滅した。



Painful

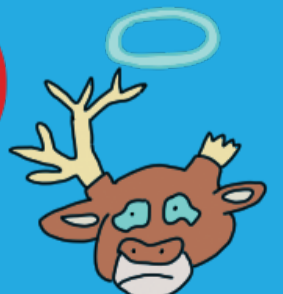
ションブルグジカ



Excellent!

湿原のある森林に生息し、夜活動をしていた。立派なツノが漢方薬として高く売れたことから、大量に捕獲された。

1932年、野生の最後が撃たれ、ベルリン動物園にいた1頭も第二次大戦直前に殺された。(1938年)



Never!